

令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

神奈川県川崎市

自治体名：神奈川県 川崎市

担当課名：教育委員会事務局学校教育部健康教育課

電話番号：044-200-3828

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	144.35 km ²
人口	1,550,182人
公立中学校数	52 校
公立中学校生徒数	29,922人
部活動数	749 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	検討中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市においては、52校の公立中学校があり、生徒数は、29,922人で749部活が活動している。その中で、文化部活動は、229部活あり、6,629人の生徒が所属している。今後数年間の生徒数については、推計では、ほぼ横ばいの傾向であり、少子化による部活動への影響は少ないと思われる。

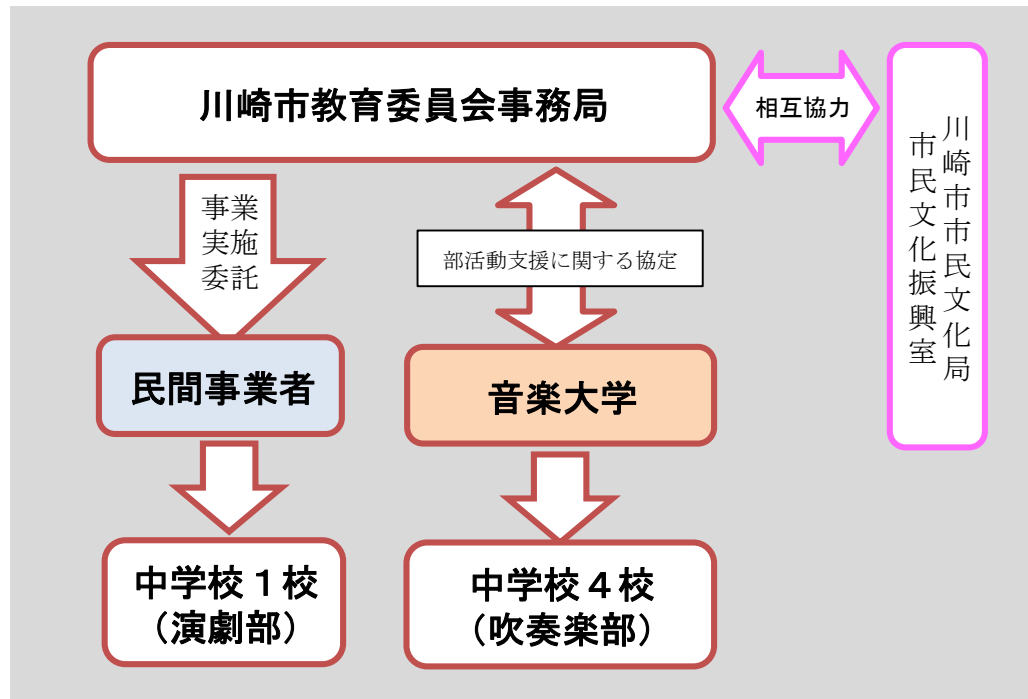
しかし、生徒の部活動に対するニーズの二極化（楽しみたい派とうまくなりたい派）に加えて、教員の部活動に係る業務に対する負担感が増していることから、本市の部活動運営には、生徒の声に寄り添った対応と教職員の働き方・仕事の進め方改革の推進の両立が求められている。これらの課題解決策の一つとして、地域等にいる外部人材を活用しながら文化活動の環境を整備し、将来的な地域移行につなげていく必要がある。

以上の課題解決に取り組むため、現在、当事者である中学生に、現在や将来の部活動について考え、どんな部活動をしていきたいかなどを学校内で話し合いを行ってもらっている。話し合われた意見については、本市における今後の部活動の在り方の検討や、「川崎市立中学校のこれからの部活動指針（案）」を作成する際の資料とする予定である。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・健康教育課…部活動改革の主管。学校との調整・連携など

◎首長部局

・市民文化振興室…本事業実施に関する助言等

年間の事業スケジュール

- 令和 6 年 9 月** 川崎市立中学校の部活動に係る懇談会の実施
- 市内の音楽大学（昭和音楽大学、洗足学園音楽大学）の在学生及び卒業生による市立中学校吹奏楽部（4校）での指導開始（令和 7 年 1 月まで）
- 令和 6 年 12 月** 委託先の民間事業者（株式会社 アーシャルデザイン）から派遣された指導者による市立中学校演劇部（1校）での指導開始（令和 7 年 1 月まで）
- 令和 7 年 3 月** 川崎市立中学校の部活動に係る懇談会の実施

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	52 校	実施した地域クラブ総数	5 クラブ
全体の指導者数	9 人	全体の運営スタッフ数	5 人（民間事業者）

②各クラブに関すること

学校名	運営団体 種別	種目	実施回数	実施時間 帯	参加者 (総部員)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数
日吉中学校	教育委員会	吹奏楽	合計 8 回	主に土曜日 の午前中	30 人	令和 6 年 9 月～ 令和 7 年 1 月	学校	2 人	1 人 (健康教育課)
橘中学校	教育委員会	吹奏楽	合計 12 回	主に土曜日 の午前中	41 人	令和 6 年 9 月～ 令和 7 年 1 月	学校	2 人	1 人 (健康教育課)
高津中学校	教育委員会	吹奏楽	合計 11 回	主に土曜日 の午前中	51 人	令和 6 年 9 月～ 令和 7 年 1 月	学校	2 人	1 人 (健康教育課)
稲田中学校	教育委員会	吹奏楽	合計 4 回	主に土曜日 の午前中	49 人	令和 6 年 9 月～ 令和 7 年 1 月	学校	2 人	1 人 (健康教育課)
西中原中学校	民間事業者	演劇	合計 4 回	主に土曜日 の午前中	5 名	令和 6 年 12 月～ 令和 7 年 1 月	学校	1 人	4 人 (民間事業者)

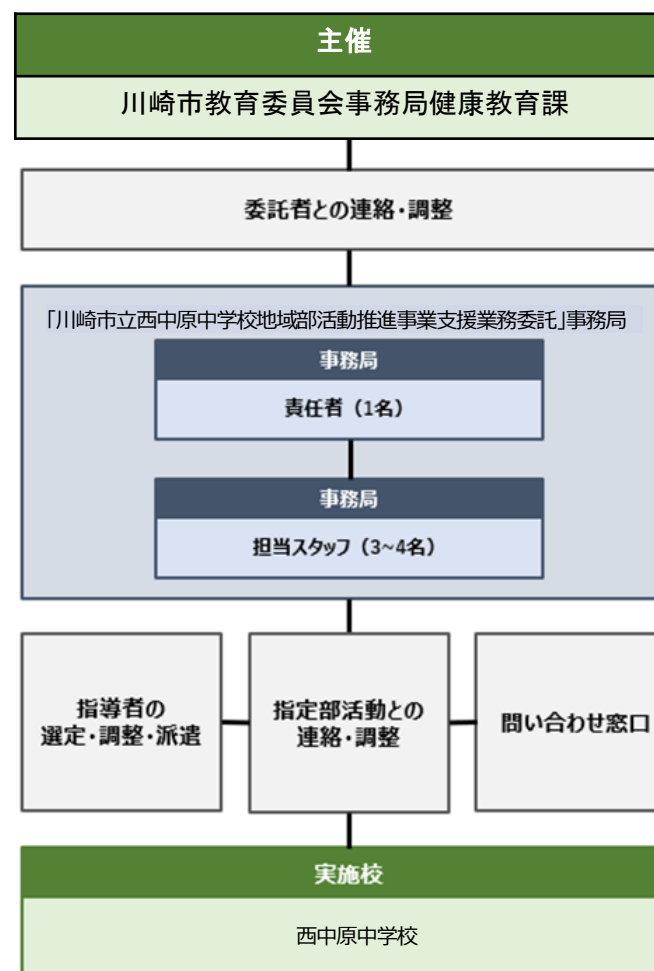
2.実証内容と成果

主な取組例

●西中原中学校演劇クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	演劇
運営団体名	株式会社 アーシャルデザイン
期間と日数	2日／月
指導者の主な属性	俳優
活動場所	西中原中学校
主な移動手段	徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	0円

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・関係団体等との懇談会の実施

取組の成果

・「川崎市立中学校の部活動に係る懇談会」を開催し、そのメンバーである本市吹奏楽連盟などと情報交換を行った。

今後の課題と対応方針

・子どもたちのための部活動の在り方、顧問の教員の働き方や保護者等の関わり方、今後も持続可能な部活動の在り方などについて、多様な関係者から意見を聴きとった上で、「川崎市立中学校のこれからの部活動指針（案）」の作成に向けた基本的な考え方をまとめる予定である。

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保／ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・部活動支援協定に基づく市内音楽大学からの指導者人材の確保
 ・民間事業者の導入による指導者の導入

取組の成果

・吹奏楽部については、昨年度に続き、昭和音楽大学及び洗足学園音楽大学から合計10名の在学生及び卒業生を指導者として派遣してもらった（うち2名は学校側と指導日の調整がつかず実質8名で実施）。
 ・演劇部についても、昨年度と同じ学校での実施のため、事前に学校側から指導者に求める条件や部員である生徒の様子をヒアリングし、指導方法を入念に検討した上で、実際の指導に入った結果、生徒と良好な関係を築き、指導者・生徒双方にとって有意義な部活動となった。

今後の課題と対応方針

・指導者は自身の音楽活動等で忙しく、学校の希望どおりに指導ができないこともあるため、派遣元の大学と調整を行い、指導者の数を増やして、学校の要請に応えられるようにする。
 ・民間事業者の場合、学校側が次年度も同じ指導者を希望しても、次年度も同様に契約できるとは限らないため、そのような事態への対応方法を検討する。
 ・顧問に代わって、継続的に部活動を指導できる団体や指導者を確保するため、各種団体などとのヒアリングを通して連携を強化し、地域移行に向けた体制づくりを行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項 生徒へのアンケートの実施

取組の成果・今後の課題と対応方針

今回の事業実施後の生徒のアンケート結果によると、顧問以外の者から専門的な指導を受けることについては、今後も継続を求める声が上がったが、今後、地域移行が本格化し、新たに組織されるクラブへの加入については「参加するかどうか分からない」という声が多い中で、「学校の部活動と同じメンバーと一緒にできない」ことなどを理由に参加したくないという意見があり、既存の部活動のメリットを踏まえた地域クラブの在り方についての検討が必要である。

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項 保護者・学校の費用負担について調査し、実態を把握した上で、部活動を地域移行した際の受益者負担の在り方を検討する。

取組の成果・今後の課題と対応方針

今回は、試験的な取組のため、本事業に係る経費を市費負担としたが、今後、受益者負担を求める際、生徒と保護者が対価として満足できる技術指導、内容、指導環境等が求められる。また、保護者の理解を得ながら、段階を踏んで実施していく必要がある。

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項 休日の文化部活動を行う際の学校管理下外の活動場所の検討及び学校開放の考え方を参考にしながら、校舎利用のルールを検討。

取組の成果・今後の課題と対応方針

- ・吹奏楽部は、パートごとに分かれて練習する場所と、合奏練習を行う場所が必要となるが、学校近隣の公共施設等でこれら両方又は一方を探すのは、市民等の利用が多いことから難しく、また、楽器保管・運搬などの点からも、学校で行うのが現実的である。また、演劇部も場所の確保の点では同様に手配が難しく、これらの部活動については、近隣の学校生徒が拠点校に集まり合同で練習するなど、学校を拠点とした活動を考えていく必要がある。
- ・校舎利用は、現在、外部の者が使用できる部屋は限定されているため、今後、休日用の活動内容の検討や校舎利用方法の見直しなど課題が残る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

・川崎市の部活動の姿を考えるため、大学生がファシリテーターとなり、多様な主体（中学生～高校生）による対話形式の意見交換会を実施。

取組の趣旨

・アンケートを基に、様々な年代の子どもたちが意見交換をすることによって、大人だけで決めない、川崎市の部活動の姿を考える。

取組の成果

・様々な年代の子どもたちによる意見交換会の実施により、大人だけで決めない、川崎市の部活動の姿を考える機会となった。

取組の成果

・子どもたちによる意見交換会を始めとし、多様な主体における意見聴取を行い、今後、部活動指針を策定する。



2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

【吹奏楽部】

- ・部活動支援に関する協定を締結した市内音楽大学（昭和音楽大学、洗足学園音楽大学）から派遣された指導者による休日の吹奏楽部指導を実施。
- ・昨年度よりも指導者の派遣時期を早く開始することができたことに加えて、指導者も昨年度とほぼ同様の方が従事してくれたことにより、顧問及び生徒の双方から、他の業務に従事できる時間ができた、生徒の技術の向上が見られたなど概ね好意的な意見であった。
- ・指導日の日程調整について、学校と指導者側との都合が合わせるのが難しいとの意見が複数の学校からあった。

【演劇部】

- ・民間事業者を導入し、演劇及び学生指導の経験がある人材を指導者として派遣し、休日の部活動指導を実施。
- ・顧問からは、指導を指導者に任せられたことで、部活動中に別の仕事をすることができたとの感想があり、生徒からも専門的な指導が受けられて満足であり、来年度も指導を望む声があった。また、他校との合同練習を今年度初めて実施できたことについても、指導者や生徒たちにとって良い刺激となった。



演劇部での指導の様子

●成果の評価

- ・吹奏楽部については、顧問だけですべての楽器を同じように教えることは難しいため、専門外の楽器の指導を外部人材でカバーできたことは大変有益であり、生徒も指導者側も自身の成長につながったとの感想をいただいたので今後も継続していきたい。
- ・演劇部については、指導者が子役から始めたプロの役者であり、また、学校で演劇を指導した経験もあり、演劇指導に長けていたことに加え、生徒たちの前向きな姿勢もあり、指導回数は少なかったものの、生徒と指導者の間で良い信頼関係が生まれ、非常に有意義な活動であった。

●今後に向けて

- ・休日に加えて平日の派遣指導の導入。
- ・近隣の学校との合同練習の実施。
- ・指導者の増員(学校の都合に応じて指導者を派遣できる体制づくり)。
- ・中学校での部活動の在り方に関する意見交換会の実施を行うとともに、「川崎市立中学校の部活動に係る懇談会」において地域移行を含めた部活動の在り方について意見を聴取する。

2.実証内容と成果②

参加者の声（アンケート結果より）

●生徒の声

【吹奏楽部】

- ・基礎をしっかり教えてもらうことができた。
- ・練習メニューが充実していた。
- ・個別に指導を受ける時間が増えてよかった。
- ・来年度も同じ指導者から指導を受けたい。
- ・（今回指導した楽器とは異なる楽器を担当する生徒からの意見）
指導してもらった生徒が的確なアドバイスを優しく教えてもらえたと言っていたので自分も教えてもらいたいと思った。

【演劇部】

- ・基礎をしっかり教えてもらうことができた。
- ・レベルの高い指導を受けることができた。
- ・練習メニューが充実していた。
- ・来年度も同じ指導者の指導を受けたい。

●顧問の声

【吹奏楽部】

- ・生徒の技術向上に役立った。また、専門ではない楽器の指導をフォローしてくれて助かった。
- ・上手な人と一緒に演奏できることが、生徒たちにとって良い刺激になった。
- ・他の業務に取り組む時間ができた。
- ・人手不足なので助かったが、指導日のスケジュール調整が、指導者の都合もあり難しかった。

【演劇部】

- ・発表会に向けた練習や他校とのワークショップでの指導などを通じて、生徒たちが楽しく部活に参加でき、演技力も向上した。
- ・指導者がいる間、他の業務に取り組む時間ができた。また、専門ではない分野の指導をフォローしてくれて助かった。
- ・指摘された内容を今後の課題として、生徒たちと共有することができた。

●指導者の声

【吹奏楽部】

- ・生徒たちの技術向上を実感できて、指導して良かった。また、人に言葉で教えることで自分の理解を言語化することで深めることができ、自身の成長にも役立った。
- ・普段から学業や部活動に頑張っている生徒たちの助けになることができてよかった。
- ・吹奏楽の大会前のシーズンなど、もう少し早い時期から指導できるとよい。
- ・単に生徒を指導するのではなく、指導する上での目標などを生徒や顧問などと話し合う機会を設けてもらえるよかった。

【演劇部】

- ・生徒たちが素直でやる気に満ち溢れており、とてもやりがいがあった。
- ・地域移行はとても良い取組だと思う。学校側と外部の指導者がしっかりとコミュニケーションが取れば、生徒にとって大変有意義なものになると思う。

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

検討開始

指導者の選定、
拠点校の選定

学校現場との
調整
懇談会設置

地域クラブ活動
の開始

令和6年

地域クラブ活動
の継続実施

令和7年

これからの部活動
指針（案）作成

●ステークホルダー

学校、教育委員会事務局、市長事務部局など

●経過

令和5年度に有識者による懇談会を設置し、休日の部活動の地域移行及び今後の部活動の方向性について検討を開始した。また、同年に市内音楽大学2校と市立中学校の文化部活動支援に関する協定を締結した。

●実施内容

令和5年度は、市立中学校5校の吹奏楽部において、休日の部活動に市内音楽大学の在学生及び卒業生を指導者として導入し、試験的な取組を開始した。また、市立中学校1校の演劇部でも、民間事業者の支援を受けて、取組を開始した。

●実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、指導者と学校側との間で指導日の調整に係る負担が大きいことが指摘された。

また、吹奏楽部については、指導者の専門や経験によって指導可能な範囲が異なるため、より多くのパート楽器を指導したり、合奏など全体的な指導を指導するには、指導者の増員などを検討する必要がある。

●今後の展開

令和7年度も引き続き同じ学校での取組を継続するとともに、令和6年度中から実施している市内中学校生徒による部活動の在り方についての意見交換会を継続していく。

また、有識者による懇談会の意見などを踏まえて、本市全体の地域移行の方向性を踏まえた、「川崎市立中学校のこれからの部活動指針（案）」を作成する。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

学校部活動のあり方に向けて

- 部活動の更なる適正化の検討
- 国、県の動向や他都市の先進事例収集
- 各種調査実施

部活動指導の支援

- 部活動指導員の更なる活用
- 大学や地域団体と連携した指導者人材養成等の環境整備を検討

休日の部活動の地域移行の検討

- 拠点校実践研究による検証
…拠点校生徒、教員、保護者へのアンケート実施によるニーズ調査
- 関係団体等との連携可能性の検討

関係者の声をカタチにするために

○多様な主体による対話形式の意見交換を実施

- ・中学生、教員、保護者のほか、小学生、高校生、大学生、地域のスポーツ・文化 芸術団体などの多様な主体の参加
- ・既存の会議等を活用して、実施予定

○川崎市立中学校の部活動に係る懇談会における意見聴取

先生じゃなくてもできる部活動にするには？

保護者が協力できることってなんだろう？

地域の力で実施可能な部活動は？

こどもが気軽に楽しくできる部活動は？



川崎市立中学校のこれからの部活動指針（案）の作成予定